平成２９年度　羽島の歌人　萬造寺斉顕彰

黎明の地
ふるさと短歌大会集

萬造寺斉生誕の地(羽島)

主　　催　羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主　　管　黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後　　援　鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
　　　　　市文化協会・　南日本新聞社

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって　いちき串木野市長　田畑誠一
選　評　審査委員長　森山良太（歌人）
大賞および各部の最優秀賞
小学生の部
中学生の部
高校生の部
一般の部
応募校一覧

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長　田畑　誠一

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き　文化の薫る　世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では活力ある教育・文化の振興を図り、「ふるさとを愛し、夢と志をもち、心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、黎明の地羽島地区では毎年、羽島出身の歌人「萬造寺斉」先生を顕彰するため、萬造寺斉先生の墓前で先生がふるさとを思って詠まれた望郷歌を歌うなど顕彰活動を行ってまいりました。今年は先生の没後六十年を迎えるにあたり、地域の有志の皆さんが集まって小説「緑の国へ」も出版されました。

このような中、市といたしましても、近代日本の礎を築く原動力となった薩摩藩英国留学生が命がけで出発した地でもある羽島に薩摩藩英国留学生記念館を建設し、その偉業をたたえるとともに、行政と地域が一体となって青少年の育成や地域文化の保存、地域活性化に取り組んでいるところです。

今回の短歌大会は、こうした歴史的背景のある羽島で生まれ育った歌人「萬造寺斉」先生を顕彰していくとともに、市民が短歌に親しみ、文化の薫るまちづくりの一環として実施することにいたしました。五月一日から七月二十日まで作品を募集したところ、県内各地から三，一五三点もの作品が集まりました。集まった作品は、県短歌協会のご協力の下、厳正なる審査を行い、十一月五日、市民文化センターにおいて二十九名の方々が受賞されたところです。

この大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては文化の振興につながることを期待して刊行にあたってのあいさつといたします。

選評

審査委員長　森山良太（歌人）

"ふるさと"を思い浮かべるとき、ふるさとを離れている人はもちろんのこと、その地に留まっている人も、皆懐かしくもせつない思いになるのはどうしてでしょうか。ただ単に生まれ育った場所を思い出すだけではなく、過ごしてきた時間を振り返り、親しい人々との思い出に浸るからではないでしょうか。

誰にとっても大切な"ふるさと"ですが、いちき串木野市は、

ふるさとや海のひびきも遠き世のこだまの如し若き日思へば

などの「望郷歌」を詠んだ萬造寺斉を輩出した町です。また、薩摩英国留学生たちの旅立ちの場所でもあります。当地で、応募総数三一五三首もの短歌作品を集めて「黎明の地ふるさと短歌大会」を開催できることに、深い感銘を覚えます。

さて、第一回の今大会の「大賞」は、指宿市山川小学校二年の西梓佐さんの次の一首です。

教しつに　かおりがとどく　かつおぶし　ちちのてつだい　したくなる風

いかにも、かつおぶしの町山川らしい一しゅです。かつおぶしを作るかおりが、海からの風にのって教しつにとどいてくるのでしょう。そのこうばしいかおりに、はなをひくひくさせながら、「お父さんの手伝いをしたくなる」というのです。西さんのお父さんは、かつおぶしの工場ではたらいているのでしょうか。そして、西さんはときどきお父さんのしごとのてつだいをしているのでしょう。かつおぶしのかおりただようふるさと山川の空気感と、そこでくらす西さんとかぞくのゆたかな心のこうりゅうにみりょくを感じました。

次に、各部門の最優秀賞の作品を紹介します。まず、小学生の部から。

こんにちは　でいごうけゆり　きれいだな　きょうからここが　ふるさとになる

池地小学校一年　三ノ京楓花

三ノ京さんは、あまみのうけしまにひっこししたのですね。そこで見た海の青さや、デイゴやウケユリの花のうつくしさにかんどうしたのでしょうね。「きょうからここが　ふるさとになる」と、元気いっぱいな三ノ京さんに、きっとしまの自ぜんも「いらっしゃい」と、むかえたことでしょう。

次は、中学生の部。

この海を　夢見て渡った　十九人　彼らが作った　ぼくらの未来

串木野中学校三年　満冨啓人

薩摩英国留学生たちを思い描いた作品です。彼らが切り開いた日本の近代と、今私たちが生きている現代に、作者は思いをはせたのです。そして、その彼らが旅立った海こそ、今作者の目の前に広がっている「この海」なのです。先人への敬意と、自分たちの未来への希望にみ力を感じました。

続いて、高校生の部。

日が落ちて　満月の夜　海亀が　命を生みに　故郷へ来る

串木野高校三年　末吉夏美

日没の後、海を照らす満月。その青い光の中を静かに浜へ上がってくる海亀の姿が幻想的です。そして、その海亀は、「命を生」むために、「故郷へ」来るのです。命への深い思いは女性らしい感性です。また、結句からは、海亀が産卵に来るという自然豊かな「故郷」への愛情と誇りを感じました。

さらに、一般の部。

水玉の　ワンピースの母　目に浮かぶ　ふるさとの庭　ぐみの実たわわ

いちき串木野市　萩原順子

久しぶりに「ふるさとの庭」に立ったのでしょうか。たわわに実ったぐみの実を見て、「水玉のワンピース」姿の若かりし日の母を思い出すのでしょう。故郷を思い描くとき、人は時に子供の心に帰って、優しかった母をあまく切なく懐かしむのです。

最後に、留学生の歌

カトマンズ　ネパールのしゅと　うつくしい　おてらがたくさん　ガンティのおと

いちき串木野市　pariyar　pratiksha

「ガンティ」は、小型のシンバルのような民俗楽器。遠く離れた故郷の街を、多くの寺院とそこで打ち鳴らされていた楽器の音で懐かしんでいます。故国を、具体的な音で懐かしんでいるのが魅力です。かつての薩摩英国留学生たちも、この方のようだったかもしれません。「留学生の部」もあるといいと思った一首でした。彼らはやがて故国に帰って、それぞれの国の発展に寄与していくことでしょう。かつて欧米の先進国へ留学生を派遣した薩摩藩が、日本が、何よりその出発地であったいちき串木野市が、それから一五〇年の歳月を経て、各国

からの留学生を迎え入れる地になっていることに、深い感慨を覚えます。

五首しか紹介できませんでしたが、多くの「ふるさとを愛する」作品に出会うことができました。それぞれの各作品と作者の思いに、まずもって敬意を申し上げます。加えて、いちき串木野市はじめ関係の各位、ご協力下さった各学校の先生方、何よりご応募下さった方々に、厚く御礼申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一　趣旨

本市が輩出した歌人、萬造寺斉氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「人が輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し 夢と志を持ち 心豊かでたくましい人づくり」の体現を目指します。

二　主催等

(1) 主　催　羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
(2) 主　管　黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
(3) 後　援　鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会、市文化協会、南日本新聞社

三　応募作品数について

(1) 小学生の部
(2) 中学生の部
(3) 高校生の部
(4) 一般の部

四　各賞について

【入　賞】

大　賞　全部門の中から１名
最優秀賞　各部門１名（小、中、高、一般の４部門）
優 秀 賞　各部門１名　〃

選者賞　　各部門１名　〃
市長賞　　各部門１名　〃
県歌人協会賞　各部門１名　〃
教育長賞　各部門１名　〃
南日本新聞社賞　各部門１名　〃

五　表彰式について

日時：平成二十九年十一月五日（日）午後十三時から
会場：いちき串木野市市民文化センター　大ホール
会順
　開会のことば
　市長あいさつ　　田畑誠一市長
　表彰
　選評　　森山良太審査委員長
　閉会のあいさつ　　有村孝教育長
　閉会のことば

六　選者（予備審査及び本審査）

森山良太
　所属等：現代歌人協会会員、日本歌人クラブ鹿児島県監事、鹿児島県歌人協会会長、華短歌会代表
　表　彰：平成十七年、第51回角川短歌賞受賞
　作　品：歌集『西天流離』

川涯利雄
所属等：現代歌人協会会員、かごしま近代文学館短歌講座講師など
作　品：第一歌集『エロイカを聞く夜に』、第二歌集『帰去来』、第三歌集『風の丘』など多数

川野ちづゑ
所属等：現代歌人協会会員、にしき江
作　品：歌集「青炎」

東郷良子
所属等：現代歌人協会会員、南船発行人
作　品：第一歌集「倒影」、第二歌集「小山田の影」、第三歌集「高麗橋」

斎藤むつ子
所属等：山茶花
作　品：歌集「幻化」

大賞・各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会　大賞】

教しつに　かおりがとどく　かつおぶし
ちちのてつだい　したくなる風

指宿市立山川小学校2年　西　梓佐

【小学生の部　最優秀賞】

こんにちは　でいごうけゆり　きれいだな　きょうからここが　ふるさとになる

瀬戸内町立池地小学校1年　三ノ京　楓花

【中学生の部　最優秀賞】

この海を　夢見て渡った　十九人　彼らが作った　ぼくらの未来

いちき串木野市立串木野中学校3年　満冨　啓人

【高校生の部　最優秀賞】

日が落ちて　満月の夜　海亀が　命を生みに　故郷へ来る

鹿児島県立串木野高等学校3年　末吉　夏美

【一般の部　最優秀賞】

水玉の　ワンピースの母　目に浮かぶ　ふるさとの庭　ぐみの実たわわ

いちき串木野市　萩原　順子

小学生の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会長賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

両手をね　空までのばして　この町を　ずっと見ている　大くすじいさん

姶良市立重富小学校4年　辻野　香子

【市長賞】

青い空　ツマベニだいこ　うでをふる　ドンドドドンと　こころにひびく

指宿市立山川小学校2年　樋口　瑛映

【県歌人協会賞】

こころざし　高く旅立つ　若き武士　大きな一歩　日本の夜明け

いちき串木野市立串木野小学校5年　和田　こうりゅう

【選者賞】

風がふき　葉っぱがゆれた　そのときに　葉っぱのみんな　話し始める

いちき串木野市立市来小学校6年　久保　朱李

【教育長賞】

南の空　にゅうどうぐもが　もっくもく　あら川じゅうが　わたあめになったよ

いちき串木野市立荒川小学校2年　中野　心杏

【南日本新聞社賞】

ふるさとの　つるの港の　あげ場には　福伝丸と　父親がいる

指宿市立山川小学校6年　鮫島　洋大

【佳　作】

ひさしぶり　変わってないね　ばあちゃん家　とんこつ料理　なつかしい味

姶良市立重富小学校５年　松尾　向日葵

思い川　上からじっと　見ていると　魚がぴちゃり　きらりとひかる

姶良市立重富小学校５年　西田　響

しずく飛ぶ　ほうせきよりも　キラキラと　み力あふれる　布引の滝

姶良市立重富小学校５年　花田　貴康

ばあちゃんの　庭のアサガオ　お目覚めか　赤青むらさき　まるで花火だ

姶良市立重富小学校５年　中原　大成

玉虫が　お盆の夜に　天国の　じいちゃんばあちゃん　つれてくる

姶良市立重富小学校５年　大浦　由雅

みどり色　ボンタンばたけの　はっぱたち　たけのこまつりの　おいしいたけのこ

阿久根市立尾崎小学校２年　餅越　ゆきの

みなと町　ザーザーザーしずかに　なみの音　大きいふねと　風をまつ人

指宿市立山川小学校２年　高橋　華蓮

虫とりあみ　するっとぬけて　にげてった　にんじゃみたいな　トノさまバッタ

指宿市立山川小学校３年　鮫島　真央

ふるさとの　山の空気を　すいこんで　新しい朝が　はこんでくる

指宿市立山川小学校５年　今村　勇仁

石橋の　下を流れる　湊川　こいやしらさぎ　くらしているよ

指宿市立指宿小学校５年　岩留　彩華

まってます　あなたが来るのを　池田湖に　どこかにきっと　ぼくがいるから

指宿市立指宿小学校６年　前原　瑠璃

里山や　青葉の木から　蝉の声　急いでかける　ぼくと弟

指宿市立指宿小学校６年　濵田　桂輝

「さあ、やるぞ」　分かっているのに　やる気出ない　さいきょうのてき　ぼくのしゅくだい

いちき串木野市立旭小学校３年　西　貞信

はなのみち　みどりのはっぱが　こんにちは　みんなといっしょに　まえにならえだ

いちき串木野市立荒川小学校１年　邑上　莉愛

かぶとむし　強い力で　木をつかみ　ブルドーザみたいに　トンネルをほる

いちき串木野市立荒川小学校２年　甲斐　誠人

なつのよる　ほたるとびかい　ながれぼし　たいこの音と　きょうえんしてる

いちき串木野市立荒川小学校２年　蛯原　万梨香

ことしこそ　みんなでおよぐ　なつの海　すいすいすいと　お魚になる

いちき串木野市立荒川小学校２年　中野　紗椰

暑い中　荒川太こ　ひびかせて　負けないように　がんばるほたる

いちき串木野市立荒川小学校４年　野﨑　竣介

海の中　夕日がしずむ　いい所　波も波うち　おどっているよ

いちき串木野市立荒川小学校５年　徳永　凌太

ホタルたち　きらきら光る　人の目に　荒川川の　ツリーのように

いちき串木野市立荒川小学校６年　金丸　隆太郎

どんどんどん　太この音色　ひびかせて　みんなでたたくと　心がおどる

いちき串木野市立荒川小学校６年　中野　結友

ほたるがね　おしりをひからせ　よんでいる　ぼくとあそぼう　おいかけっこしてね

いちき串木野市立市来小学校１年　みその　やまと

れいめいの　せせらぎのかわ　ひろいうみ　ぶんか・れきしを　しっているんだ

おぎおんさぁ　山の上には　さむらいや　神様たちが　乗っている

おぎおんさあ　わたしもいつか　きそい合う　三味線かた手に　姉と二人で

しお風に　ゆれる草木と　ぼくのかみ　しずむ夕日と　いっしょに帰る

伝統を　長年うけつぐ　かんせいに　自然を生かした　浜競馬かな

ほいくしに　なりたいわたし　がんばるぞ　おっちょこちょいで　しっぱいしても

あぜ道に　どっしりすわり　田を見つめ　いねを見まもる　田の神さあ

ふるさとを　さらさら流れる　やふさ川　命育てる　ぼくたちの水

あせながし　地いきみんなで　育ててる　さわやかな味　川上のお茶

森の中　たいことかねの音　川上おどり　セミもしずかに　おうえんしてる

広い海　船が一せき　夕やけが　きれいに見えて　かがやいている

いちき串木野市立市来小学校１年　岩村　俐杏

いちき串木野市立市来小学校４年　町田彩

いちき串木野市立市来小学校４年　大久保　結衣

いちき串木野市立市来小学校５年　池山　陸

いちき串木野市立市来小学校６年　新納　淳之介

いちき串木野市立川上小学校１年　さいしょ　みき

いちき串木野市立川上小学校３年　小牟田　紗南

いちき串木野市立川上小学校３年　内田　悠進

いちき串木野市立川上小学校３年　橋本　鈴佳

いちき串木野市立川上小学校４年　吉留　京

いちき串木野市立串木野小学校４年　船蔵　虎鉄

海に出て　まぐろをつって　夕やけが　まぐろをてらす　まっかなライト

はまけいば　ひとつたたけば　はやくなる　もっとたたけば　ばいそくだ

夏になり　あら川行けば　川ぞいに　光かがやく　ホタルたちかな

照島の　海に消えゆく　夕陽見て　今日の一日　思いめぐらす

串木野の　きれいな海は　小魚と　人があつまる　すなはまがある

あらかわの　きれいな川に　まいおりる　ホタルの光　星空のよう

砂浜に　貝といっしょに　おどる波　果てなく続く　空と海のハーモニー

冠嶽園　きれいな水に　ホタルまう　徐福見守る　私のふるさと

目の前の　世界につづく　うなばらに　やさしい風を　せにうけすすむ

串木野は　ふるさと感じる　このにおい　ゆったりとした　優しい場所だよ

串木野の　夕日がしずむ　海に道　夜になっても　星が満開

いちき串木野市立串木野小学校４年　田中　結菜

いちき串木野市立串木野小学校５年　岩下　太智

いちき串木野市立串木野小学校５年　益山　昊大

いちき串木野市立串木野小学校５年　末満　匠

いちき串木野市立串木野小学校５年　田島　慶大

いちき串木野市立串木野小学校５年　永原　陽煌

いちき串木野市立串木野小学校６年　井手上　樹生

いちき串木野市立串木野小学校６年　北山　美玖

いちき串木野市立串木野小学校６年　榎並　大悟

いちき串木野市立串木野小学校６年　川元　瑛詞

いちき串木野市立串木野小学校６年　濵田　琥舶

しおかぜを　たくさんあびて　いそあそび　ゆうひがおちる　ながさきばな

いちき串木野市立串木野小学校６年　岩切　大き

ぼうけんは　にしだけのぞむ　みかんやま　いきるせんせい　ふるさとのやま

いちき串木野市立生福小学校１年　内田　晨太

はまけい馬　馬と心を　かよわせて　ゴールへむかって　全力しっそう

いちき串木野市立生福小学校３年　松田　采華

串木野の　サワーポメロが　おいしくて　わたしの口は　春でいっぱい

いちき串木野市立生福小学校３年　鍛治屋　夢悠

れいめいの　みなもにうつる　魚たち　はねるおとだけ　よぞらにひびく

いちき串木野市立照島小学校４年　久保　しゅんや

そよかぜに　なみがかがやく　ゆらゆらと　ふねもおひるね　きもちよさそう

いちき串木野市立羽島小学校１年　小野　明日

青い海　キラキラかがやく　ダイヤみたい　キラキラあつめて　みんなにあげよう

いちき串木野市立羽島小学校２年　やまさき　さよ

ばちでたたく　羽島の歴史　竹太こ　ほうさく・大漁　音でいのる

いちき串木野市立羽島小学校６年　前田　大吉

中学生の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】
春の浜　馬が競って　砂が飛び　風がふきぬけ　勝負が決まる
いちき串木野市立生冠中学校2年　德重　真心

【市長賞】
雨靴で　そっと飛びこす　水たまり　映るいつもの　空と町並み
鹿児島市立南中学校3年　若松　真央

【県歌人協会賞】
白浜の　夕日を前に　伸びをして　明日への一歩を　踏み出してみる
いちき串木野市立羽島中学校3年　入枝　駿

【選者賞】
アルバムを　開くとそこは　桜道　ランドセル背に　小さな私
姶良市立重富中学校2年　上園　佳奈

【教育長賞】
黄昏に　冗談言って　笑い合う　重いかばんと　いつもの道と
いちき串木野市立串木野中学校3年　満留　佳奈

【南日本新聞社賞】
照島の　砂浜走る　子供たち　夕日が空で　見守っている
いちき串木野市立串木野中学校1年　久木野　そよ

【佳　作】

海の風　体全身　浴びてると　体全身　夏の男だ

思い川　ゆうがになびく　こいのぼり　思い川から　天まで泳げ

夜空には　たくさんの星　輝いて　思いをこめて　笹舟流す

花の種　どんなお花に　なるのかと　土の中から　考えている

夏の色　海の青さに　空の青　入道雲の　白広げてく

晩ご飯　光るお米の　一粒は　父の苦労が　味で伝わる

父と祖父　ともにつりした　あのつり場　わたしと父と　祖父とのひみつ

ふるさとの　重くゆがんだ　玄関の　とびらにふれる　成長した手

思い川　そっと見守る　こいのぼり　子供の夢を　のせてはためく

ひまわりと　背くらべしてた　あのころに　もどってみたい　話してみたい

思い川　毎日ちがう　水の量　今日も一緒に　大きくなろう

姶良市立重富中学校１年　阿部　隼人

姶良市立重富中学校１年　神宮司　真聖

姶良市立重富中学校１年　岩切　るえな

姶良市立重富中学校１年　川畑　直樹

姶良市立重富中学校１年　長倉　拓音

姶良市立重富中学校２年　橋口　健志郎

姶良市立重富中学校２年　福谷　菖

姶良市立重富中学校２年　玉利　美月

姶良市立重富中学校２年　加治木　歩美

姶良市立重富中学校３年　篠原　邑

姶良市立重富中学校３年　安倍　夢花

あらそって　上まで走った　白銀坂　時の流れは　いっしゅんだった

祖母の家　大きな自然に　かこまれて　私の悩み　ちっぽけにさせる

この町に　生まれて早くも　十四年　この地に根付く　ぼくの思い出

ザーザーと　心に響く　水の音　勇気をくれる　布引の滝

夕焼けの　だいだい色に　染められて　伸びる我が影　揺れるヤシの木

郷里の　青き稲田の　輝きに　迷いを捨てて　力強くこぐ

暑い夏　赤くそまった　夕焼けは　ジリジリジリと　ふるさとをてらす

串木野の　海は夕日に　照らされて　まるで今にも　この手に届く

ふるさとに　星がかがやく　夏の夜　大三角が　きれいに光る

雪降る日　寒いふるさと　でもなぜか　ぬくもり深く　つつまれている

思い出が　多いほど思う　この場所を　私は支え　守り続けたい

姶良市立重富中学校３年　田中　翔矢

姶良市立重富中学校３年　畠山　栞

姶良市立重富中学校３年　竹下　蒼汰

姶良市立重富中学校３年　大寺　唯衣子

いちき串木野市立市来中学校２年　角田　悠莉

いちき串木野市立市来中学校２年　永井　祭理

いちき串木野市立串木野中学校１年　久徳　奏太

いちき串木野市立串木野中学校１年　西田　晴菜

いちき串木野市立串木野中学校１年　緒方　渉

いちき串木野市立串木野中学校１年　千竈　那成

いちき串木野市立串木野中学校１年　出水　七海

照島の　海岸の奥に　沈みゆく　ふるさと見守る　優しい夕日

浜競馬　凛々しき顔で　待っている　一瞬のうちに　浜の風切る

窓の外　屋根のむこうの　水平線　空との境を　繰り返しなぞる

ザンザンと　羽島の海が　語るのは　今へつながる　羽島の歴史

自転車で　駆け上りゆく　坂道を　こえた瞬間　青の世界

英国へ　旅立った彼らも　同じように　海見て故郷　想っただろうか

生命の　誕生の地　吹上浜　ふるさとへ帰る　ウミガメたち

ふるさとの　海を渡った　留学生　日本の文化　発展させた

たくましく　地車を引く　花冠祭　友と一緒に　頑張るお兄

さあ行くぞ　七夕踊りの　合図鳴り　一斉に進む　踊り人

セミの声　樹液の匂い　父の背中　思い出される　夏の思い出

いちき串木野市立串木野中学校２年　大竹　晃生

いちき串木野市立串木野中学校２年　山上　日菜子

いちき串木野市立串木野中学校２年　長友　綾香

いちき串木野市立串木野中学校３年　鳥越　美妃

いちき串木野市立串木野中学校３年　井坂　夏姫

いちき串木野市立串木野西中学校３年　山本　ねね

いちき串木野市立串木野西中学校１年　冨永かりん

いちき串木野市立生冠中学校１年　砂坂　健太

いちき串木野市立生冠中学校１年　齋藤　朱由那

いちき串木野市立生冠中学校３年　樋之口　優馬

いちき串木野市立羽島中学校３年　火野坂　実結

いつだって　思い返せば　そこにある　こころのうちに　故郷の景色

博多から　新幹線で　二時間半　菜の花薫る　ここは故郷

今日もまた　ちらっと上を　見上げると　「キバレ」ときこえた　桜島から

城山の　頂上からみる　風景は　全てがつまる　思い出のはこ

鹿児島県　最南たんの　与論島　ユンヌの心は　島人ぬ宝

虫の声　芽吹く山々　潮の音　心に抱く　島の声かな

思いだす　黄金の稲の　葉の匂い　母の呼ぶ声　まだ耳残る

下じきで　流れる汗を　あおぐぼく　授業時間まで　あと一分

秒針の　音と鼓動が　響きだす　試験開始の　合図とともに

帰り道　夕日とかさなる　桜島　さかさにうつった　海をながめる

鹿児島市立鹿児島南中学校３年　瀬戸口　晃貴

鹿児島市立鹿児島南中学校３年　森永　蘭加

鹿児島市立鹿児島南中学校３年　小川　紗穂

鹿児島市立長田中学校１年　野間　早耶香

鹿児島市立長田中学校２年　古江　昌大

鹿児島県立楠隼中学校２年　名越　洸太朗

鹿児島県立楠隼中学校２年　上玉利　栄希

学校法人神村学園中等部１年　鞭　小々音

学校法人神村学園中等部２年　得永　美潤

学校法人神村学園中等部２年　西原　妃夏

高校生の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

公園の　隅に作った　秘密基地　立入禁止の　札が錆びつく

県立市来農芸高等学校3年　上原　康平

【市長賞】

街中を　清く流れる　室見川　水の生命を　海へとどける

学校法人神村学園高等部３年　冨岡　奈々

【県歌人協会賞】

キラキラと　薩摩切子が　輝いて　ガラスに映る　薩摩の歴史

学校法人神村学園高等部１年　加世田　みらい

【選者賞】

大楠が　見守る街が　ここにある　永遠につながる　我が蒲生郷

学校法人神村学園高等部２年　池田　唯乃

【教育長賞】

ふるさとは　緑の風吹く　皇徳寺　ブルーベリーの　道はとだえず

学校法人神村学園高等部３年　中上　黎士

【南日本新聞社賞】

我が故郷　眠る島津が　守り神　受け継がれてゆく　薩摩魂

学校法人神村学園高等部１年　田中　龍稀

【佳　作】

おかえりと　帰宅途中の　細道で　言って下さる　近所の方々

男たち　泥にまみれて　叫び躍ぶ　米の豊作　願いを込めて

うまたちが　砂浜走る　はまけいば　海をにぎわす　串木野の祭り。

島口で　話す会話が　懐かしい　また聞きたいな　「おぼらだれん」と

行く道の　稲穂がゆれる　伊佐の町　夕日当たると　黄金に光る

帰り道　歩いていると　お帰りと　なつかしい声　ふるさとの声

九州の　一番北に　北九州　好きっちゃ　うちらの　愛する地元

子規の国　水の豊かな　西条市　椿の花も　色とりどりに

ちょうちんと　人が並んだ　商店街　さのさの音頭　響く夏空

山畑の　すんだ空気と　川の音が　いつも響いて　すずしい田舎

学校法人神村学園高等部１年　月足　梨沙

学校法人神村学園高等部１年　新屋　晴輝

学校法人神村学園高等部１年　外薗　美空

学校法人神村学園高等部１年　池川　葵

学校法人神村学園高等部２年　福田　愛梨

学校法人神村学園高等部２年　坂下　ひかり

学校法人神村学園高等部３年　小島　あみ

学校法人神村学園高等部３年　矢葺　悠

学校法人神村学園高等部３年　出水　柊

学校法人神村学園高等部３年　山下　桃佳

喧騒と　コンクリートに　包まれた　街がいつしか　僕のふるさと

県立市来農芸高等高校３年　旭　龍人

宿題の　窓に変わらず　新緑が　まぶしい僕の　育った団地

県立市来農芸高等高校３年　尾関　秀義

かくれんぼ　野球サッカー　鬼ごっこ　日の暮れるまで　遊んだ公園

県立市来農芸高等高校３年　佐野　正幸

正面に　桜島見た　裏山も　今はすっかり　荒山となる

県立市来農芸高等高校３年　壽福　乃基

勉強や　ドッチボールの　思い出が　つまった海辺の　小さなホール

県立市来農芸高等高校３年　鈴木　七海

友達と　競って遊んだ　すべり台　あの公園に　今はもう無く

県立市来農芸高等高校３年　中野　光一

皺深き　父の笑顔が　出迎える　修学旅行　帰った玄関

県立市来農芸高等高校３年　濵田　明日香

夕暮れの　公園野球　少年に　十年前の　俺が重なる

県立市来農芸高等高校３年　原田　大輝

田んぼから　近所のおばちゃん　「おかえり」と　今も変わらず　迎えてくれる

県立市来農芸高等高校３年　松木　美樹

重箱の　大好物の　からあげに　午後のリレーの　英気をもらう

県立市来農芸高等高校３年　松﨑　咲千佳

とれたての　祖母の野菜の　天ぷらの　熱さが今も　忘れられない

県立市来農芸高等高校３年　宮永　佳依

玄関の　奥から聞こえる　母さんの　おかえりの声に　心安らぐ

懐かしの　甑の海の　天草の　においに記憶　呼び戻される

青空と　森に囲まれ　うぐいすの　声も聞こえる　祖父のベランダ

弟と　虫網かついで　登る坂　引っ越した友の　家通り過ぐ

打ち寄せる　波音今も　聞こえ来る　祖母の縁側　夕涼みする

十八年　変わらずにある　ふるさとの　万緑の山　光るせせらぎ

梅雨終わり　薄暗い空を　見上げると　夏へ導く　虹のかけ橋

あの頃は　二人で歩いた　帰り道　今は一人で　自転車をこぐ

日が落ちて　一人で歩く　アスファルト　昼より明るい　町中寂し

ふるさとの　風車の山に　風が吹く　ホタルの光　虫のせせらぎ

滝の下　生い茂る木々を　歩きけり　流るる水が　風を運びぬ

県立市来農芸高等高校３年　盛田　恵来

県立市来農芸高等高校３年　山下　和騎

県立市来農芸高等高校３年　神原　誠

県立市来農芸高等高校３年　得永　美樹

県立市来農芸高等高校３年　福一　明佳

県立市来農芸高等高校３年　福田　幸雅

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校１年　木佐貫　洸

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校１年　内村　春樹

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校１年　二宮　孝輔

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校２年　吉川　未来

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校３年　山﨑　康博

昔見た　田園風景　もう見えず　陽炎ゆれる　アスファルトの道

ふるさとは　緑豊かな　中山町　学校帰りに　吸う花の蜜

夏の朝　兄と集めた　かぶとむし　今では誰も　使わぬ虫かご

島離れ　初めて気付く　あたたかさ　今なら言える　感謝の言葉

串木野の　３時のチャイム　美しい　歌声ともに　ひびきわたるよ

荒川の　山懐に　手を広げ　大きな息を吐き　気分爽快

なつかしい　亡き父の姿　思い出す　夕暮れ時の　父との時間

「いってきます」　故郷の海に　背を向けた　僕の耳には　汽笛が響く

草木揺れ　海風薫る　港町　グラウンドでは　青空授業

さにつらふ　紅葉色づく　冠を　靡かす風こそ　社にて知れ

広い海　たくさんの家　見える場所　ここが私の　スタートライン

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校３年　鮫島　歩

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校３年　濱田　成実

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校３年　元原　誠人

県立鹿児島工業高等学校２年　森　翔哉

県立串木野高等学校１年　東　春菜

県立串木野高等学校１年　栫　楓

県立串木野高等学校１年　尾立　由理菜

県立串木野高等学校２年　前平　笑里

県立串木野高等学校３年　岩切　静楓

県立串木野高等学校３年　蛯原　貴博

県立串木野高等学校３年　植屋　志保

一般の部

優秀賞・市長賞・選者賞・県歌人協会長賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

つばくらめ　頭をすれすれに　とび行けり　ふる里は今　田植えの頃か

いちき串木野市　中屋　清康

【市長賞】

羽島岬　潮騒の音に　抱かるる　斉の家跡　椿は赤し

鹿児島市　御﨑　圭子

【県歌人協会賞】

羽島崎に　うち立ちて見れば　半島は　巨き弓なりに　海を抱けり

薩摩川内市　泊　勝哉

【選者賞】

夕暮れの　塩入崎のホームの灯　世の音　断ちし　ひとつの世界

いちき串木野市　小橋口　御代

【教育長賞】

「父さんの　初盆郷に　帰れない」　陸自の息子　杷木に泥掻く

鹿屋市　畑地　芳子

【南日本新聞社賞】

艶消しの　写真のやうな　梅雨の庭　くちなしの花　柔らに烟る

鹿屋市　小隈　久美子

【応募作品】

潮かをる　丘に眠れる　父ははの　墓標は夕日に　抗ひて立つ
姶良市　塩満　暁洋

ゆらゆらと　空に突き出る　虫網が　二つ三つ四つ　何を捕らんか
姶良市　山口　啓子

年ごとに　人ら減りゆく　ふるさとを　悲しむ如く　ほととぎす鳴く
阿久根市　別府　義明

ふるさとを　想ふ叔母より　送り来し　梨の木に白い　花が咲いたよ
阿久根市　有田　イチエ

ふるさとの　駅で涙す　老父母に　また帰るからと　笑顔をつくる
阿久根市　小田原　寛朗

潮の香に　ガジュマルの木に　島唄に　思いをはせる　ふるさとの空
阿久根市　小田原　沙八香

幼なき日　親と登りし　白銀坂　竜のごとくに　古道の続く
いちき串木野市　内屋　順子

串木野の　港見守る　徐福像　今朝遠洋へ　マグロ船発つ
いちき串木野市　橘木　重雪

六十路　朽ちた生家に　父母が居り　懐かし語らい　胸奥で訊く
いちき串木野市　有村　孝

おはようと　未来を詰めた　ランドセル　黎明の地を　ふみしめてゆく。
いちき串木野市　中村　キヨ子

茜雲　東支那海　秋太郎　はるかな沖に　潮の道あり

英国へ　旅立つ若き　魂を　乗せて羽島の　夜へ漕ぎ出す

照島の　輝く海に　魅せられて　凛と佇む　清しき乙女

泰然と　白波わけて　響きたる　便りを待ちつ　船の音いずこ

波濤越え　まぐろ追う船　送る妻　帰港し時は　子も歩きたり

暮れなずむ　沈む夕陽を　ながむれば　黄昏色に　母の面影

朝の海　ない白波に　心晴れ　今日もふるさとが　浮かぶ日々かな

群青の　汽笛の届く　学び舎は　海の香ぞする　旅立ちの春

公園の　数まで知ってる　町がある　特別な町　安穏な記憶

迷う時　決める物差し　今は亡母　生き続けてる　心のふる里

いちき串木野市　冨田　逸郎

いちき串木野市　本村　誠人

いちき串木野市　市来　真美

いちき串木野市　大城　雄一

いちき串木野市　原田　安代

いちき串木野市　新地　浩三

いちき串木野市　田中　哲

いちき串木野市　福壽　辰

いちき串木野市　前田　尊志

いちき串木野市　黒江　康子

垂直に　上り下りする　蜻蛉の　羽音も聞こえぬ　鄙の夕暮れ
いちき串木野市　満薗　健士郎

思春期の　子育て担う　妻ありて　苦労を思う　単身の夜
いちき串木野市　髙瀬　薫

垂乳根の　送りし粽　噛みしめて　胸の温もり　ふと蘇る
いちき串木野市　紙屋　直道

りりょうがん　どんどどどどと　しなのうみ　きそいうまおと　あかはしのはま
いちき串木野市　豊留　健秀

海匂ふ　「いさり火の塔」の　建つ丘に　消ゆることなき　君の面影
いちき串木野市　川口　京子

鏡越し　老いても変わらぬ　おしゃべりと　地元言葉と　はさみのリズム
いちき串木野市　北　洋昭

照島の　夕日にほおを　染める君　寄せるさざ波　気付かぬままに
いちき串木野市　上園　裕子

「夕日がきれいよ」と　君の言葉に　視線をあげる　四月の浜辺
いちき串木野市　上園　拓郎

外つ国へ　若き志士らの　船出せし　海は「斉」の　夕映えの故郷
いちき串木野市　上中　イクコ

まちをでて　あさひがのぼる　まちへゆき　しずむゆうひに　こいしさつのる
いちき串木野市　西村　健一

幼き日　友と遊びし　校庭の　その小さきに　しばし佇む

七月の　豪雨情報　気になれば　故郷の父母の　安否はいかに

人知れぬ　悲喜こもごもを　抱えきて　カーブの先に　里が広がる

望郷歌　刻まれて建つ　はしま崎　波をかさねて　詠につがるる

ふるさとは　清き海山　変りなく　幾年過ぎも　歴史漂う

二０才にて　第二の道の　ふるさとは　父母を想いし　潮の香届く

帰りたい　場所を故郷と　呼ぶのなら　転勤のたび　増える故郷

校庭の　五本の大木　緑つけ　夏の日差しの　ひと休みの場

串木野の　ひと・もの・文化に　魅了され　Iターン決め　家族喜ぶ

農芸の　しおりをながめ　とうとうと　校歌の出だし　口ずさむ父

いちき串木野市　松山　隆志

いちき串木野市　山田　克美

いちき串木野市　蛯原　尚子

いちき串木野市　火野坂　幸子

いちき串木野市　萩元　妙子

いちき串木野市　立山　照子

いちき串木野市　岩下　勝也

いちき串木野市　新名主　一哉

いちき串木野市　永田　真也

いちき串木野市　桃北　紀和

手に団扇　乙女らの顔と　浴衣着は　祭りの夜の　暑さを揺らかす

ふるさとの　自然のめぐみ　うけついで　永久の平和を　童にたくす

ふるさとの　海と対座の　アコウの木　萬造寺斉　生誕の地よ

照島の　沈む夕日に　染められて　くしきのさのさ　われら踊りぬ

古希迎え　子供の項の　色あせぬ　悲喜こもごもの　思い出の数

脈々と　萬造寺氏を　たたへゐる　郷のさざ波　郷のさみどり

クール便　急ぎ開けば　磯の香に　つのまきつわぶき　島からのめぐみ

病床の　母の傍ら　花一輪　我が家の匂い　ほのかに香る

山里に　六人姉妹　睦み生く　ひとり残りて　追憶の夏

ふるさとの　夕月おぼろな　山狭に　かじか鳴きかう　岩間の泉

銀ラメの　ただよい失せり　茜さす　沖の入り日に　まどろむなぎさ

いちき串木野市　塰泊　昭子

いちき串木野市　宇都　耕平

いちき串木野市　萬福　平次

いちき串木野市　有馬　恭子

いちき串木野市　浅井　淑子

いちき串木野市　髙野　光子

いちき串木野市　北　奈美

いちき串木野市　久木野　親志

いちき串木野市　塚田　睦子

いちき串木野市　萩原　美恵子

いちき串木野市　中島　タツ子

照島の　浜に沈みゆく　夕日かな　明日の希望を　胸に抱きて

ありあけの　あさぐもうつし　波の音　母のオモカゲ　消していく

潮騒と　カエルの鳴きと　共にして　暮らす幸せ　羽島で沁みる

晴れ晴れと　終のすみかは　ふるさとの　磯につながる　美し海辺

サリナスの　歌声聞いて　みな涙　ふるさと思う　心はおなじ

遥かなる　我が身の果てを　想うとき　若き薩摩児の　滾る血を憶う

荒波に　いのちをかけた　わこうどが　サーファーとなって　ふるさとに立つ

夏休み前のイベント　さのさまつり　日差しもあつし　夏の夕暮れ

入る夕日　散りゆく桜　菊もみじ　潮路沖島　昨日の歌人

夕暮れの　海を眺めて　夢をみる　のべつ幕なし　生きた証ぞ

なつかしき　母校にもどり　同窓と　つけあげあてに　しょちゅで乾杯

いちき串木野市　弓指　修

いちき串木野市　中堀　純子

いちき串木野市　福薗　豊二

いちき串木野市　福薗　眞理子

いちき串木野市　吉満　昭代

いちき串木野市　石坂　義孝

いちき串木野市　久保　正治

いちき串木野市　古園　千春

いちき串木野市　中尾　重美

いちき串木野市　西田　憲智

いちき串木野市　井手　拓一

綿毛とぶ　野山に遊そぶ　子供らと　齢を忘れて　風とはしゃぐ

いちき串木野市　紙屋　貴美子

出穂を　告げるがごとし　赤とんぼ　豊作祈る　祭りも近し

いちき串木野市　紙屋　恵美子

我が子等を　遊ばし来たる　ふるさとの　川辺に揺らぐ　母の面影

いちき串木野市　新町　高美

あなたへと　私はふるさと　会いに行く　待ってるだけじゃ　いられないから

いちき串木野市　西村　愛

岳碧く　柱横たう　峰の先　樹海をはるか　大海望む

いちき串木野市　長崎　崇

嫁ぎきて　ふるさととなれり　串木野は　笑ひ・涙・　幸を与うる

いちき串木野市　前田　貴子

ふるさとの　父母逝きて　佇めば　柿の木一本　庭に残れり

いちき串木野市　栫　律子

ランドセル　揺らして通う　焼酎の　においほのかに　ふるさとの路

いちき串木野市　有馬　英代

ふるさとの　匂いが詰まる　チッキ便　荷札に残る　インキの滲み

いちき串木野市　梅北　幸子

そのむかし　至るところに　溝ありて　子子のいた　ふるさと遠し

いちき串木野市　内田　ヨシ子

八瀬尾滝　水粒躍る　木々や風　離れていても　心はそばに

いちき串木野市　中島　朋子

落陽を　ひきよせ抱く　羽島崎　磯の香りよ　涼風はこぶ

黎明の　かの地を想い　異国より　大志をいだき　明日を夢見る

踊り連　なつかし友の　所作みつけ　暑さ忘れる　さのさ祭り

海も凪　港出船よ　かもめさん　娘気がかり　おやじの港

白浜の　遠くにかすむ　沖の島　今日も幸わせ　おやじの港

海しづか　こしきの海も　かもめ待つ　あすは出船だ　漁も踊る

春ジャガを　掘る手を休めて　顔あげる　眼下に広がる　海原ひかる

坂のぼり　やっと会えたね　おとうさん　ご無沙汰わびる　花と線香

ふるさとは　微笑む父母と　波の音　澄ませば聴こゆ　いつもどこかで

マグロ船　旅立つ港　ひっそりと　希望をのせて　「かいりゅう」発つ

友の声に　耳を澄ます　窓の外に　夏休み待つ　三本の枇榔

いちき串木野市　丸山　善一

いちき串木野市　井之原　翔吾

いちき串木野市　久松　博子

いちき串木野市　坂口　嘉昭

いちき串木野市　坂口　幸男

いちき串木野市　井坂　ミツ子

いちき串木野市　平原　道広

いちき串木野市　榎元　京子

いちき串木野市　堀之内　律子

いちき串木野市　柏木　博之

いちき串木野市　屋久　真也

休耕田に　赤き野いちご　群れ熟れて　歓声あぐ孫　そそ、そっと摘む

いちき串木野市　萬造寺　アヤ子

耳すます　優しい波音　香る潮　故郷から聞こえる　三味線の音

いちき串木野市　森田　里穂

亡き祖母の　いつものソーメン　いつものスイカ　嫌々食べた　ふるさとの味

いちき串木野市　畠中　淳一

甑より　吹きくる西風（にし）は　山脈の　発電風車を　力強く廻す

いちき串木野市　小原　俊幸

ふるさとの　往時なつかし　跡所　行きつ戻りつ　友垣の道

鹿児島市　今里　修

足元の　小さき波が　運びたり　近代の道　羽島に立ちて

鹿児島市　宮下　道代

はつ夏の　羽島清しも　この碧き　海をゴンザも　眺めたりけむ

鹿児島市　坂下　俊郎

ひとひらの　思い出記す　一筆箋　，彼のふるさとは　まだ在りますか，

鹿児島市　前屋　恵子

故郷は　四方を山に　囲まれて　出奔ばかり　憧れし日よ

鹿児島市　田口　涼子

羽島灘　渡英の夢は　いかばかり　ふるさと想う　満月の夜

鹿児島市　相良　一洋

浜競馬　冠嶽の　徐福像　ふるさといっぱい　いちき串木野

鹿児島市　相良　早苗

洗濯板に　波乗りしてゐし　浜っ子等　いづこの街に　老ひづきをらむ
鹿児島市　上原　節子

パソコンに　倦みて窓辺で　深呼吸する　空の青さよ　雲の白さよ
鹿児島市　上村　章

ふるさとの　清き流れは　今もなを　友のおもはを　ただ偲びをり
鹿児島市　相徳　和義

故郷に　猛威をふるう　肝属川　６月の雨が　淀み流れる
鹿児島市　月精　清教

松露はゆ　国の松原　砂浜と　黄色のルーピン　青空に映ゆ
鹿児島市　月精　倫子

縦走の　夜ごとに変る　山小屋の　宿りに結ぶ　ふるさとの山
鹿児島市　田中　司郎

お喋りとふ　妙薬あらん　ふるさとの　母はホームへ　明日も行くらし
鹿児島市　丸山　克介

今もなほ　薩摩のまほら　羽島崎　波のはたてに　未来は招く
鹿児島市　藤崎　秋太

梅雨間ぢか　烏賊の夜焚きの　ぽつぽつと　降りみ降らずみ　串木野の沖
鹿児島市　岩屋　秀男

吾が郷は　海幸山幸　ありぬれど　人口減少　探す人少なし
鹿児島市　塘　作一

故郷に　帰りたいと　弟の　無念さ偲び　迎え火を焚く
鹿児島市　瀬戸山　武

鉦の音に　産土神は　降り来たり　羽島の太鼓　奉り踊りぬ
鹿児島市　伊地知　典子

浸食進む　基地の見える　柏原　黄色のルーピン　青空に映ゆ
鹿児島市　月精　光子

園児等の　未来の夢の　託さるる　短冊の重く　笹竹撓ふ
鹿児島市　油田　重隆

マグロ船　黒潮巡る　街の灯を　文化が薫る　黎明の地に
鹿児島市　芳田　聡子

桜島　降灰無き街を　遠ざける　物静けさに　寂しさがある
鹿児島市　岩城　正英

初めての　デートは訛りを　かくしゆく　「いっちゃ！」言ふ吾に　ほほ笑むトーキョー
鹿児島市　蓮香　伸子

ふるさとの　男の子は見たり　夕焼けの　朱なる海を　覚悟の海を
鹿児島市　高橋　裕雅

空の碧うすくなりゆく島の端　段々畑のコンテナ積まれり
鹿児島市　飯尾　和子

身にしみる　霧島おろし　吹く中で　友とはしゃいで　踏む霜柱
鹿児島市　緒方　明美

少しづつ　現を離り　ゆくやうに　その彩薄る　文月の紫陽花
鹿屋市　鎌田　明子

山深き　冠岳の　麓なる　亡母生れし里　われもふる里
霧島市　若松　奈々子

水ぬるむ　川瀬を遡る　稚鮎達　きらりきらりと　ひととせ撃ぐ

紺碧の　海の冷めたさ　伝ひくる　心太すする　真夏の喉

消えやらぬ　君に遇ひたる　心地なり　噴煙見せゐる　桜島山

若き日の　我が庭のよな　唐船塚　望むは遥か　羽島崎かな

ほんのりと　障子に浮かぶ　指きつね　光と影に　子等はたはむる

嫁ぎ来て　五十六年の　年月は　私が子等の　古里になり

あかときに　ライン光れり　大雨は　大丈夫かと　孫の問ひくる

野辺に咲き　光り輝く　ノカンゾウ　我ここに居ると　主張してゐる

枇杷の実を　捥いでもらひて　一服す　貴重な貴重な　刻かも知れず

少年は　ボール遊びより　将棋戦　じいちゃんに負け　くやしき顔す

大安に　野菜の種を　蒔き終へて　定期検診に　夫出かけたり

霧島市　藏原　鴻

霧島市　窪田　久子

霧島市　濱田　キミ子

霧島市　須納瀬　悟

霧島市　河野　史江

薩摩川内市　假屋　泰子

薩摩川内市　奥園　和子

薩摩川内市　大井　政子

薩摩川内市　平田　立子

薩摩川内市　田中　ゆふ子

薩摩川内市　堀段　能婦子

汐風に歓声交じる浜競馬照島の空を　大漁旗舞ふ
垂水市　鶴　晴美

たまさかの　諍ひなど経て　半世紀　看護師放り　峡に沈めり
長島町　米尾　和子

ふるさとよ　蜻蛉を追えば　誘蛾灯　かえれぬ闇に　母の呼ぶ声
西之表市　古澤　勝

しずかなる　唐船塚を　ながむれば　陶工たちの　にぎはふ声す
日置市　坂口　勝美

五反田の　河口まで夕陽　追ひかけて　寒さも忘れ　日脚伸びたり
日置市　坂口　和世

青蚊帳の　中で遊びし　幼な日の　思ひ出遥か　遠くなりゆく
日置市　大野　京子

川遊び　はしゃいだ後の　昼下がり　夢の中へと　誘う風鈴
日置市　柳原　悦子

あかね空　顔を上げてと　誘うよう　ひと色に染まる　ふるさとの街
日置市　波戸　三幸

山百合の咲きほこる道かけ上る　ま白き雲の沸き立つ夕べ
東串良町　津田　幸子

あぢさゐに　朝一番の　真つさらな　光とどけり　みづみづと夏
南九州市　若松　富士子

古希きたり　泣こかい飛ぼかい　サワサワと　木々がささやく　泣こよかひっ飛べ
南九州市　長山　みえ子

ふる里は　心の泉　果つるまで　枯るることなし　景湧き出づる

南さつま市　西園　屋恵

【留学生の作品】※留学生の多数の作品の中で優秀作品のみ掲載

カトマンズ　ネパールのしゅと　うつくしい　おてらがたくさん　ガンティのおと

いちき串木野市　pariyar pratiksha

ぼくのくに　きれいなダナン　にぎやかだ　いろいろなはし　ドラゴンのはし

いちき串木野市　do van phu quoc

初夏の日に　家族みんなで　登ったよ　象みたいな山　桂林の山

いちき串木野市　蘇　嘉銘

台北の　古い町並み　臭い豆腐　懐かしい味　あまずっぱいね

いちき串木野市　黄　昱凱

ふるさとへ　もどりたいです　母つくる　ももおもった　おいしかったよ

いちき串木野市　tamang munna

わらいごえ　かわいいこども　おもいだす　こころにうかぶ　ふきあげのなみ

いちき串木野市　ashali maimaiti

応募校一覧（あいうえお順）

○姶良市
姶良市立重富小学校
姶良市立重富中学校
○阿久根市
阿久根市立尾崎小学校
○いちき串木野市
いちき串木野市立旭小学校
いちき串木野市立生冠中学校
いちき串木野市立荒川小学校
いちき串木野市立市来中学校
いちき串木野市立冠岳小学校
いちき串木野市立羽島中学校
いちき串木野市立羽島小学校
いちき串木野市立串木野西中学校
いちき串木野市立生福小学校
いちき串木野市立串木野中学校
いちき串木野市立川上小学校
いちき串木野市立照島小学校
いちき串木野市立市来小学校
いちき串木野市立串木野小学校
鹿児島県立市来農芸高等学校
鹿児島県立串木野高等学校
学校法人神村学園中等部
学校法人神村学園高等部
学校法人神村学園専修学校日本語学科
○指宿市
指宿市立指宿小学校
指宿市立山川小学校
○鹿児島市
鹿児島市立南中学校
鹿児島市立長田中学校
鹿児島市立黒神中学校
鹿児島県立開陽高等学校
鹿児島県立鹿児島工業高等学校
学校法人原田学園鹿児島情報高等学校
○肝付町
肝付町立楠隼中学校
○瀬戸内町
瀬戸内町立池地小学校
○長島町
長島町立伊唐小学校